

# 主体的に学び、学びを深める子供の育成

## 指導内容の重点化における単元構成の工夫を通して

### 1 前段として

これからの社会においては、生成 AI の加速度的発展や変容する社会情勢など、非連続的な変化が予測され、未来を生きる人間に求められる資質・能力や、人間が学ぶことの意味について、社会の関心が高まっている。そのような社会を生きる児童生徒に対し、今後の学校教育では現実社会に存在または内在している諸問題から物事の成り立ちや本質を見極めた上で自ら問いを発したり、見通しをもって自ら設定した課題について、多様な他者と協同しながら、幅広い視座や視点から解決に対して粘り強く取り組んだり、自らの学習方略、課題解決の仕方を振り返りながら調整を図ったりすることを通して「思考力、判断力、表現力等の総合的な理解」や、各教科等の特質に応じた「知識及び技能に関する総合的な理解」など、「高次の資質・能力」を発揮していく質の高い教育活動が必要である。また、質の高い教育活動の実現に向けては、教師の価値創造性と指導力向上が欠かせない。そのために、学びいっばい部では、「主体的に学ぶ力・学びを深める力」をキーワードにその具体を明かし、「『やってみよう！』と主体的に考え、行動する子供の育成」を目指す。

### 2 研究計画

令和7年度	教科等の40分授業における学習過程の具体化
令和8年度	指導内容の重点化における単元構成の工夫
令和9年度	40分授業におけるパフォーマンス評価を位置付けた単元構成の工夫
令和10年度	教科横断的な学習、カリキュラムマネジメント

### 3 主題設定の理由

#### (1) 社会の要請から

急激な社会の変化に伴い、予測困難な時代を生き抜く力が求められる中、文部科学省の論点整理では「資質・能力の三つの柱」を一体的に育むための「主体的・対話的で深い学び」の実現が喫緊の課題として示されている。本主題は、単なる知識の暗記や技能の習得に留まらず、子供が自ら思考して、生きて働く確かな知識を習得するとともに、未知の状況においても自ら納得解を導き出すことができる力を養うことを目指すものである。社会の要請に応えるこうした学びを実現するためには、これまでの網羅的な指導を脱し、「何を学ぶか」の重点化を通して、子供が主体的に学び、学びを深める姿を目指すことが重要である。このことは、令和3年1月の文部科学省「令和の日本型教育」の構築を目指して（答申）で述べられているように、全ての子供の未来の可能性を引き出す上でも意義深いと考える。

#### (2) 本校児童の実態と課題から

学力の二極化が見られ、基礎基本の定着が不十分な児童の割合が一定数おり、高学年につれて増加している。また、低学年で基礎基本の学力の習得に差ができてきている実態もある。

令和7年度に学年末に実施した児童アンケートからは、「自分で考える」、「自分から挑戦する」、「自分で課題を把握する」項目において低い数値が見られ、学力の二極化との相関関係が明らかになった。このことは、子供自身が「何を学び、何ができるようになったか」ということを意識化できずに学んだことを生かすことができていないことが原因だと考える。また、授業者においてもカリキュラムオーバーロードの言葉に代表されるように「あれも、これも」と指導内容が散漫になり、資質・能力を発揮した子供の姿を明らかにすることができていないという実情がある。そのため、子供が受動的に学び、主体的な学びが困難になっていると考えられる。したがって、「主体的に学び、学びを深める子供の育成」には、指導内容の重点化における単元構成の工夫が必要である。

#### 4 主題・副主題の意味

##### (1) 主題の意味

主体的に学ぶとは、「まず考えてみること、行動してみること」といった思考や行動の終点がひとつに定まっていないような課題や状況に対して、培った資質・能力を活用して思考や行動を起こしていくことである。本校では、これを①初発の思考や行動を起こす力、②学びを調整する力、③他者と対話や協働する力、④学びを方向付ける力として整理した。

主体的に学び、学びを深めるとは、上記の4つの力を駆使しながら知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに粘り強く取り組むことである。主体的な学びと学びを深める姿は、実際の教科等の学び中で、別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものである。この姿を目指すことは、文部科学省「論点整理 - 教育課程企画特別部会」であるように、変化が激しい不確実な社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、社会の中で多様な他者とともに生きる力を育む上で価値高い。

##### (2) 副主題の意味

指導内容の重点化とは、「教育目標（ねらい）」の達成のために、授業の中核目標として真に目指すべき内容や能力を見定め、それについて具体的な子どもの姿で実践の出口をイメージすることである。石井（2020）は、授業の新しい目指すべき内容や能力について、現行学習指導要領が「資質・能力」ベースへのカリキュラム改革が焦点になっていることを挙げ、学校教育においては、「使える」レベルの学力を追及していくことが重要だということを述べている。本研究では、この「使える」レベルの学力を追及していくを通して、主体的に学び、学びを深める児童の育成を目指す。具体的には、以下の方途を単元内に位置づける。

具体的な方途1 最適な教材～ 児童の興味、関心・共通体験

具体的な方途2 課題の設定～ 認識のずれ、問いの連続、発展、発信の場の設定

具体的な方途3 学習環境デザイン～ 学習内容を捉える対話やツール、評価機能

このように、指導内容の重点化における単元構成の工夫とは「資質・能力」を具現化した児童の姿を「実践の出口」として明確に描き、そこに至るための教材・課題・環境を、「使える」学力の形成に向けて有機的に関連づけて構成することである。

## 5 研究計画の概要

### (1) 研究の目標

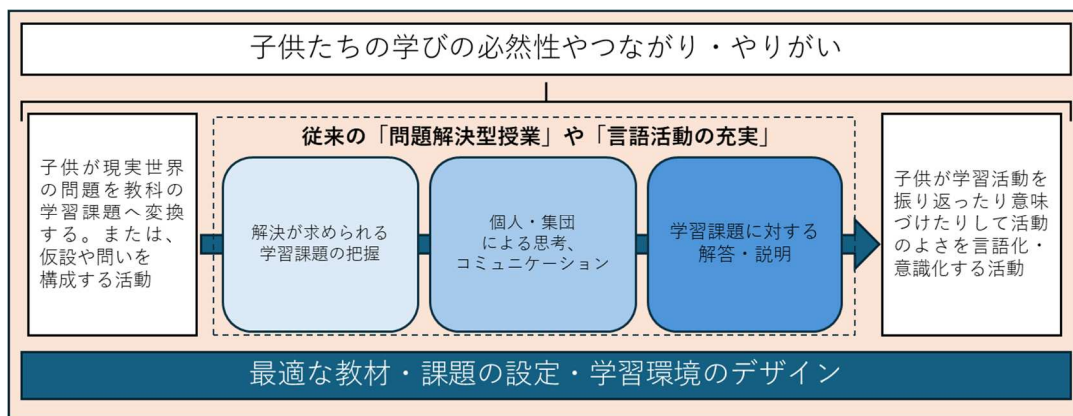
主体的に学び、学びを深める児童を育成するために、指導内容の重点化を図った単元構成の在り方について究明する。

### (2) 研究の仮説

指導内容を重点化すれば、児童の資質・能力が発揮された姿が具体化され、そこに至るための最適な教材・課題の設定・学習環境を工夫することができるだろう。このことが、①初発の思考や行動を起こす力、②学びを調整する力、③他者と対話や協働する力、④学びを方向付ける力を駆使して、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに粘り強く取り組む姿につながる。そして、知識・技能の定着と思考力、判断力、表現力等の確実な育成が実現されるだろう。

### (3) 研究の仮説による主な手立て

#### ① 単元のイメージ



#### ② 最適な教材

最適な教材とは、単に教科書の内容をなぞるものではなく、児童が「これは自分に関係がある」と自分事として捉え、課題を捉えたり、問いが生まれたりするような材料のことである。具体的には、「実物」や「本物」に触れることで、児童の興味・関心を高めたり、「地域の人材」を活用し、共通体験の場を設定したり、「不完全なもの」や「認識とのズレ」から問いが連続するようにしたりすることである。

(例1) 実物や本物に触れる～興味・関心

理科・・・3年「風やゴムの力」市販のキットだけでなく廃材等、身近なものの利用

(例2) 地域の人材の活用～共通体験

社会・・・3年「わたしたちの市の様子」近所の方へのインタビュー、グーグルアース

(例2) 不完全なものや認識とのズレ

算数・・・5年「割合」自分のチームのバスケットボールのシュートの成功率

※ 教師が教えた内容と、子供の生活が重なるもの

### ③ 課題の設定

課題の設定とは、子供の目的や課題意識が一単位時間で収束せずに、単元を通して持続もしくは発展していくためのものである。それは①認識のずれを生む、②問いを連続・発展させる、③発信の場を設定する等が考えられる。例えば、国語科「ミステリー作品の魅力を伝えよう『友情のかべ新聞』」の学習では、物語の内容の読み取りに終始せず、物語のもつ登場人物の設定や、ミステリー作品の伏線や解決場面等の関連からミステリー作品の構造を捉えることができるようにした。このようにすることで、子供は、ミステリーの面白さとは何かという課題に対して自分の考えを作る過程を通して、指導内容を捉えることができる。

### ④ 学習環境デザイン

学習環境デザインとは、児童ひとりが目的意識をもって学びを深められるよう、ICTツールや対話の仕掛け、評価の仕組みなどを単元のねらいに合わせて整えることである。ここでは、児童の思考を「見える化」するツール、対話の場、学びを振り返る評価の場等を考案していく。

#### (4) 検証方法

- ・ 全体観察 ・ 指導員と児童の反応 ・ 抽出児童の観察 ・ 写真記録 ・ ビデオ記録
- ・ 研究協議会

#### (5) 参考文献

- ・ 石井英真. 『授業づくりの深め方』. ミネルヴァ書房, 2020.
- ・ 石井英真・鈴木秀幸. 『ヤマ場をおさえる学習評価』. 図書文化社, 2021.
- ・ 文部科学省. 「次期学習指導要領に向けた内容の重点化・構造化のあり方」  
(参照 2026 - 05 - 06)

[https://www.mext.go.jp/content/20250217-mext\\_kyoiku01-000040050\\_05.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20250217-mext_kyoiku01-000040050_05.pdf)

- ・ 文部科学省. 「教育課程企画特別部会における審議の状況について」  
(参照 2026 - 05 - 06)

[https://www.mext.go.jp/content/20250709-mext\\_kyoiku01-000043656\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20250709-mext_kyoiku01-000043656_01.pdf)

- ・ 文部科学省. 「新しい学習指導要領生きる力学びの、その先へ 事務局説明資料」  
(参照 2026 - 05 - 06)

[https://www.mext.go.jp/content/20240425-mxt\\_kyoiku01-000035713\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20240425-mxt_kyoiku01-000035713_01.pdf)

- ・ 経済産業省. 「学習環境のデザイン - 空間・活動・共同体 - 」(参照 2026 - 05 - 06)

[https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/shomu\\_ryutsu/kyoiku\\_innovation/manabi\\_jidoka\\_wg/pdf/001\\_s10\\_00.pdf](https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/shomu_ryutsu/kyoiku_innovation/manabi_jidoka_wg/pdf/001_s10_00.pdf)